

地域コミュニティ協議会名称

松浜地区コミュニティ協議会

活動名称

ゲストティーチャー地域講座

世帯数

約4,100世帯

活動内容

近年、学校と地域の連携が希薄化していると言われています。

このような状況を改善し、「地域の人の生き方を通し、自分の人生の参考にさせていただきたい」との趣旨で、平成18年度から松浜地区コミュニティ協議会教育文化部会が主催となり、松浜中学校の総合学習の一環として当事業がスタートしました。

松浜地区に在住する地域のスペシャリストたちを講師に、出前講座を開催し、中学校の全生徒426名は、自分の好きな講座を選択し、約2時間楽しく真剣に学びました。

講座の内容は、「松浜太鼓」「少林寺拳法」「パソコン」「お菓子づくり」などの体験講座のほか、「松浜のなりたち」「松浜稲荷神社の生いたち」「北区のお宝再発見」など地域を知る講座、「地元出身美容師の体験談」などの生き方講座まで様々です。

生徒たちからは、「普段、体験する機会がないことを体験できて楽しかった」「郷土の歴史を知り地域に興味を湧いた」「今後の人生に活かしていきたい」などの感想が多数寄せられ、同時に、講師の方々からも「良い体験をさせていただいた」「生徒との交流が楽しかった」との感想が寄せられました。

今回で3回目になりましたが、地域・学校・生徒たちと講座の内容などを検討しながら今後も継続していく予定です。



実績・効果

この事業は、地域と学校、生徒と講師、講師同士の連携、人材の発掘など多くの可能性を期待できると思います。

地域とのふれあいの場を提供することにより、生徒たちが地域を身近に感じ、校外での地域交流も広がってきているようです。

継続して実施していくことにより、地域・学校・保護者等が連携して子どもたちの健全な育成に繋げていくことができると考えています。

地域コミュニティ協議会名称

山の下地区コミュニティ協議会

活動名称

家庭と地域との連携による子育て事業「家族で食卓を囲んで」

世帯数

約2,450世帯

活動内容

最近、親子・家族全体の家庭内におけるコミュニケーション、特に家族揃っての食事や団楽の機会が少なくなってきました。

殊に食事の時間に、テレビをつけての食事時間帯が長く、その頻度も多くなってきました。

そこで、当地区内の保育園・小中学校の園児・児童・生徒584名の家庭に、カラー印刷のイラスト及びカレンダーを配布し、テレビを見ないで夕食を楽しむ家族団楽の日を設けていただき、「家族で食卓」を囲むことを実践するための事業を実施しました。

また、期間内にどれくらい家族団楽の日が実施されたか、一目でわかるよう、実施日にはカレンダーにしるしをつけていただき、カレンダーを回収しました。

なお、平成20年度は平成21年1月～2月の期間に実施しました。

実績・効果

※最低週3回は、テレビを付けずに食卓を囲む習慣づけの普及ができました。

※事後調査結果

(1) カレンダーの回収率：保育園41.7%・小学校51.3%

(2) 実績

下記の割合で、週3日はテレビを付けずに夕食をとったという実績を得ることができました。

ア. 保育園児の家庭：約25%

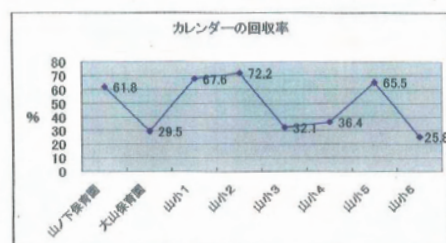
イ. 小学校1年生の家庭：約50%

ウ. 小学校2年生～6年生の家庭：約20%

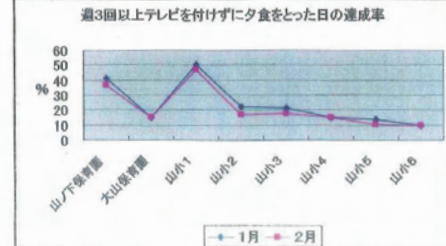
なお、詳しいデータは、添付資料のとおりです。



食卓カレンダー集計結果



週3回以上テレビを付けずに夕食をとった日の達成率



地域コミュニティ協議会名称

横越コミュニティ協議会

活動名称

合併建設計画事業における保育園用地の選定の取り組み

世帯数

約3,500世帯

活動内容

横越コミュニティ協議会では、コンパクトな組織を心掛け、まちづくり部会、健康・福祉部会、教育・文化部会の3つの部会を設けています。

まちづくり部会は、防犯、交通安全、市政懇談会の開催、合併建設計画の進捗状況の把握などの活動を行っています。

平成20年度は保育園用地の選定についての取り組みに力を入れました。老朽化した横越中央保育園の増改築が現有地で予定されていましたが、手狭であり、園児の送迎にも交通安全面から問題がありました。

そこで総会や区長との市政懇談会での協議を経て、現横越地区公民館の跡地を建設用地に選定するよう保育園父母の会、関係自治会に働きかけ、それらと連名で江南区に要望書を提出しました。

実績・効果

要望書を受け区役所が協議した結果、地区の要望を踏まえ、現有地から現横越地区公民館跡地へ変更になりました。

結果として、改築スケジュールは遅れましたが、住民の要望する用地選定がなされたことは、保育機能の向上に資するものとして評価しています。

今後とも地区の諸課題に対し、住民の声が反映するまちづくりを進めていきたいと考えています。

地域コミュニティ協議会名称

荻川コミュニティ振興協議会

活動名称

地域が見守る青少年健全育成

世帯数

約5,600世帯

活動内容

荻川地区はこの30年間で、人口が2倍に急増した地域です。新旧住民の軋轢等から、子どもたちが荒れた時代がありました。これを克服してきた住民にとって、子どもたちの健全育成はまさに欠かせないニーズなのです。

これは一つのことで達成できるものではなく、さまざまな試みと息の長い活動の継続が必要です。荻少スポーツクラブは町内会の助成を受けながら30年以上少年野球のスポーツを通じて青少年を育成。花いっぱいにする会は環境美化が穏やかな心を育む観点から、中学校生徒・警察署と連携しこの運動を18年継続。呼応して当コミュニティ協議会は、平成11年に「あいさつ」が子どもを含む新旧住民融合の原点だと「あいさつ運動」を開始しました。街宣車による呼びかけと、各町内会の協力により毎月10日に住民が街頭に立ち、呼びかけを継続しています。小学校・中学校もまたこれに真剣に取り組んでいます。

さらに学社融合事業の一環として3年前から総合学習支援に取り組んでいます。結小学校3年生全員をコミュニティセンターに招き、コミュニティセンター利用団体の皆さんのご協力で子どもたちが色々と体験をしています。今までに10に及ぶサークルの皆さんから子どもたちを指導していただき、毎年全員の子どもたちから喜びにあふれた礼状が届いております。結小学校は各学年が150名を超える県下2番目のマンモス校、これだけ多くの子どもたちを生き生きとさせてくれたのもこれまでに200名を超える地域の方々の協力のおかげです。



実績・効果

「荻少スポーツ」は少年野球で県を制覇し、他県にまで遠征と過去に幾多の実績を残して団結心と絆を育成。「花いっぱい」は穏やかで優しい感情の育成。「あいさつ」は各学校の来客や、赴任してきた教職員が感動したと述べています。新津第二中学校は「いじめ0運動」の柱に据えています。「サークル体験」では「地域の方々が生き生きと活動する姿にふれて、子どもたちは地域に対する愛着を一層深めることができました」と学校から謝意が表されています。これらが相まってか、各校長から「学校は平穏です」の報告がずっと続いています。

地域コミュニティ協議会名称

大通コミュニティ協議会

活動名称

文化講演会

世帯数

約 1,940 世帯

活動内容

当協議会は、自治協議会組織を発展的に解消し平成18年3月21日産声をあげた組織です。

7部会で構成、各部会においていろいろな事業を実施していますが、コミュニティ協議会として力を入れているものの1つが文化講演会です。

中央より著名な講師を招き子供をもつ親に年1回開催しているものです。1回目は明星大学教授・高橋史朗氏、2回目は作家・上坂冬子氏、3回目は永世棋聖・米長邦雄氏に講演をいただきました。少子高齢社会のなかで、如何に子供達を健全に育てることができるかをテーマに取り組んでいます。

事業は、コミュニティ協議会が主催し、各世帯にチラシ配布を行い小学校・中学校に協賛いただいています。ポスター・チラシは、市内全域に配布し集客を図っています。新潟市・新潟市教育委員会にも後援いただいています。

会場設営等は、小学校の協力を得て、コミュニティ協議会各部会が担っています。

参加は、毎年300人程度ですが、講演会終了後、アンケート協力を実施、地域の声を反省材料としています。



H19.10.21 講師：上坂冬子先生
テーマ：「これでいいのか日本 このごろ考えること」
会場：新潟市立大通小学校体育館



H20.12.7 講師：米長邦雄先生
テーマ：「豊かな心を育てるために」
会場：新潟市立大通小学校体育館

実績・効果

大通地区は、新潟市南区の北部に位置し、宅地開発とともに、発展してきたニュータウンです。そのため、歴史は浅く、まだはっきり地域の特色と呼べるものはありません。新潟市中心部へ通勤するサラリーマン世帯が多いため、地域のふれあいや地域の事業に関心が薄く、特に、子育て時代の家庭を如何に地域に目を向かせるかが課題です。

小中学校にも地域ぐるみで子供たちの育成に取り組むコミ協の姿勢を理解していただけており少しずつですが、前進しています。

地域コミュニティ協議会名称

西内野コミュニティ協議会

活動名称

「こぼとの会」の子育て支援活動

世帯数

約2,800世帯

活動内容

「こぼとの会」が発足したのは平成9年6月でした。

「小さくたって友だちがほしい」「ママだってお話したい」そんなキャッチフレーズで、就園前の母と子を対象に民生・児童委員の活動の一環として、月一回実施してきました。自由な雰囲気の中でゆったり過ごす時間は貴重との反応にやりがいを感じていましたが、もっと回数を増やして欲しいとの声にはなかなか応えられませんでした。

平成20年7月コミュニティ協議会福祉部の活動として、区からの予算配分も受けリニューアルオープン。会場もひまわりクラブの空き時間を利用できることになり一歩前進です。開催日も週一回となり、大変よろこばれています。民生・児童委員の他に、元「こぼとの会」利用者の母や幼稚園園長などボランティアも充実しました。

家にはない玩具で嬉々として遊ぶ子どもたち。ボランティアに抱っこされて眠る赤ちゃん。夢中で話し合うお母さんたちと共に、時には育児の相談も受けながら、地域の子どもたちのすこやかな成長の一助となりたくと願っています。



実績・効果

- ・開始時の子どもたちはもう中学生となり、地域の中に活動が定着してきています。
- ・一年に二回の保育園との交流や季節の行事、歌い継いでほしい歌の紹介や、子育てに関する情報も発信しています。
- ・祖父母の子育ても多くなり、若いお母さんたちとの交流も見られます。
- ・小さい子どもを連れて来るので、駐車場の問題が今一番の課題です。
- ・「こぼとの会」の存在や子育ての悩みを相談する場を知らない保護者をどうしたらよいのかも考えていきたいと思っています。

地域コミュニティ協議会名称

東青山小学校区コミュニティ協議会

活動名称

子育て支援事業「東青山すくすく広場」

世帯数

約3,700世帯

活動内容

—「東青山すくすく広場」誕生—

平成20年度は西区の全15コミュニティ協議会を対象に、未就園児の親同士・子ども同士が交流する場を提供する子育て支援事業推進3カ年計画の初年度。

当コミュニティ協議会ではその意を快く受け、9月の開設にむけ準備を進めてきました。

頭を痛めた会場ですが、店舗と広い駐車場があり、地元住民はもちろん近隣町内からも人の集まりやすいジャスコ新潟店の全面的な協力を得て、文化教室の一室を確保。

会員である20の自治会にスタッフ募集の手作りポスターを配布、そしてチラシを一度ならず回覧し、地域の皆さんの理解を深めることができ、ようやくほぼ予定のスタッフ数が集まりました。休む間もなく、スタッフの皆さんには西区が実施した保育研修に参加してもらい、開設直前にはジャスコ新潟店の入口でチラシを配るなど準備に余念がありませんでした。

福祉部会が中心となり、西区との協働による「東青山すくすく広場」が多数の関係者が見守る中、9月19日（金）にうぶごえをあげ、予想をはるかに上回る約70組の参加があり、その盛況ぶりに驚きの半日でした。

9月26日（金）以降も大変順調に推移しており、受付開始の午前10時30分から終了の午後0時30分までの2時間があったという間に過ぎ、毎回参加される多数の親子の皆さんから、あふれるほどの元気をいただき、スタッフ及び関係者一同心から感謝しています。



実績・効果

上記より、開設当日は70組以降、これまでの参加組数は、10月末日で合計235組、1回平均35組の参加実績です。

回を重ねても飽きがこないように、本の読み聞かせや手遊びや四季おりおりの行事を取り入れ、繰り返し参加してもらえる親子が1組でも増えるよう、一層の充実に努めたいと思います。

地域コミュニティ協議会名称

角田地区コミュニティ協議会

活動名称

海水から塩を作ろう

世帯数

約500世帯

活動内容

角田地区コミュニティ協議会の地域では、海水から塩を採っていた時代がありました。時代の流れと共に廃れていった伝統のある塩づくりを、地元小学生に協力してもらい、昔ながらの道具と方法で再現しようという企画です。

塩づくりの道具は、地域の方が以前使っていた物を保存してあり、お借りすることができました。不足の道具で簡単な物は、地域の大工さんをお願いし作っていただきました。

平成20年8月7日、砂浜をならして海水を撒き、塩田を作るところから作業は始まりました。小学生の協力で短時間で済み、天候にも恵まれて塩分を多く含んだ砂を集めることができました。

湿った砂が乾くまでの間、地域の大人と小学生との交流の時間を企画し、当時の話をしていただきながら天日で乾くのを待ちます。

昼食をはさんで、乾いた砂を集め、さらにその砂に海水をかけることで塩分濃度が通常の2倍程度の海水を取ります。塩分濃度2倍の海水を鍋で煮つめる作業は、塩づくりをすると聞きつけた地域の大人が積極的に参加協力してくれました。

午前8時30分に始めた作業も、午後4時過ぎには鍋の中に出現した塩を見ることで終了しました。



実績・効果

古い時代に地域の人たちが実際にしていた伝統の塩づくりを、当時の道具を使い再現していただくことで小学生に知ってもらえました。また、普段交流する事の少ない地域のお年寄りと小学生との交流の場を作ることができました。空き時間を利用した、遊漁船での乗船体験やスイカ割りも、子どもたちが喜んでくれました。

採れた塩は更に天日乾燥し、協力していただいた方々に後日少しずつ分けました。小学生には、2学期早々にゆで卵を作り自分たちで採った塩を味わってもらいました。地域の歴史・伝統や海を通して自然や環境についても関心を持ってもらえました。